

ナツメグ

1. 概要

ナツメグは香辛料として頻用されるが、自殺目的でも飲用されることが時々ある。ニクズクの乾燥種子であるが、成分はアリルベンゼン化合物とテルピンが混合している揮発性油（ミリスチシン、エレミシン等を含む）。その他、類似作用植物としてオランダゼリ、ウドなどがある。

2. 毒性

ヒト経口中毒量：ナツメグ 5～15g（茶匙 9杯/日で中毒症状の報告あり）

ヒト最小致死量：ナツメグ 2個

3. 症状

症状発現は経口摂取後1～8時間

注意：アトロピン中毒症状と類似（顔面紅潮、頻脈、唾液分泌低下など）の症状を呈し、誤診することあり

循環器系：頻脈、胸部圧迫痛、低血圧、ショック

呼吸器系：速く不規則な呼吸

神経系：中枢神経刺激症状・・・初期に眩暈、興奮、不安（24時間以上続くことがあり）、幻覚、多幸感、四肢脱力感

その他：口腔内乾燥、嘔吐、縮瞳

4. 処置

家庭で可能な処置

大量摂取の場合、可能ならば催吐

医療機関での処置

拮抗剤なし・・・ピロカルピンは拮抗剤として無効（アトロピン様症状に対して）

幻覚症状のある患者には鎮静（バルビツール酸療法）循環管理

大量の場合：基本的処置（胃洗浄、活性炭と下剤の投与）
対症療法

5. 情報提供時の要点

1) 小児の場合、ナツメグ2個で8歳男子の24時間後死亡例があるので、少量でも受診を勧めた方が無難

2) 成人5g以上摂取の可能性がある場合、精神症状を示すおそれがあるので受診を指示

6. 体内動態

吸収：テルピンはそれ自体精神作用はないが、胃腸を刺激することによって、アリルベンゼン類の吸収を促進

分布：ミリスチシンの一部は幻覚誘発作用を有す

MMDA (3-methoxy-4, 5-dimethylene-dioxamphetamine) に代謝、
エレミシンの一部は同様の作用を持つ

TMA (3, 4, 5-trimethoxyamphetamine) に代謝

7. 中毒学的薬理作用

- 精神神経作用：含有されるミリスチシンおよびエレミシンの代謝物によりと
いわれている
モノアミンオキシダーゼ阻害作用
止瀉作用：結腸粘膜におけるプロスタグランディンの産生および活性阻害
作用によりと考えられている

8. 治療上の注意点

- 1) 症状発現：経口摂取後 1～8 時間
精神症状持続時間：6～24 時間
回復：通常、24 時間以内。2～3 日かかることあり
- 2) アトロピン中毒様（抗コリン作用様）の症状が発現することがあるが、
抗コリン作用をもつ成分は含有されていないので、ピロカルピンなどの
拮抗剤は無効。精神症状にはバルビツール酸療法
- 3) 縮瞳が一般的であるが、散瞳を呈することあり
- 4) 初期には中枢神経刺激症状を示し、後期には傾眠状態が 24 時間以上持
続することあり
- 5) 中毒症状を呈しても、検査値は正常であること多し

9. 参考文献

- (1) Poisindex (1997)
- (2) Clinical Toxicology of Commercial Products (1984)

10. 作成日

19900215 Ver. 1.00
ID M70183_0100_2